

MRSA 遺伝子型解析 (POT 法) による院内感染伝播経路の予測

○渡邊 はるか¹, 田中 寛之¹, 高橋 学¹, 栗山 陽子¹, 一戸 真由美¹, 前田 好章¹, 黒澤 光俊¹ (¹北海道がんセンター 感染対策チーム)

[目的] 院内感染の原因菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の同一性の推定を当院においては抗菌薬の感受性試験で確認していた。しかし、確定的な評価が難しいことが問題であった。感染経路を予測することは、院内での伝播を抑える上で非常に重要である。そこで、適切な評価を行うために MRSA の遺伝子型を特定する新たな方法である POT 法を取り入れた。解析結果と入院状況から院内感染対策に役立てたケースがあったので報告する。

[方法] 2014 年 8 月から 10 月までの期間に某病棟で MRSA 感染が報告された患者 8 名のうち、抗菌薬の感受性パターンが類似した 7 名の MRSA 遺伝子型を調査した。遺伝子の抽出にはシカジーニアス DNA 抽出試薬を用いた。

[結果] 調査を行った患者 7 名中、4 名の遺伝子型が一致した。このうち 3 名は同室患者であり、同時期に入院していた。また、他の 1 名に関しては、同時期に入院していたが、病室や処置等の共通性はなく、また、患者同士の接点は確認できなかった。

[考察] 病棟の環境からは、MRSA が検出されてはいなかった。遺伝子型と病室状況を照らし合わせると、同室者またはスタッフ等の人を介しての伝播が疑われた。ICT から病棟スタッフへの状況報告とラウンド、標準予防策の徹底を呼びかけた後、MRSA の発生が終息へと向かった。以前の方法と比較しても POT 法は簡易的で迅速に MRSA の伝播を確認できるため、臨床現場での有用性が高いと考える。